

【11月9日／ラテラノ教会の献堂】

【説教】

「ラテラノ教会の献堂」を記念している今日、私たちは、すべての教会が神にささげられていることを思い起こしています。

神にささげられているから、聖堂と呼ばれているのです。

私たちは今日、神にささげられているとはどういうことかについて、祈りのうちに考えるように招かれています。

今日の福音で、主イエスは、「わたしの父の家を商売の家としてはならない」と言われます。

主は、商売という営みをおとしめているわけではありません。商売を行う人がいなければ、私たちは生きていくことができません。商売に従事している人たちは、私たちの生活を支えるために、休むことなく働いています。私たちの求めに、笑顔で応えています。私たちは、商売という尊い仕事をしている人たちに、心から感謝したいと思います。

商売の尊さを確認した上で、なぜ、神の家である聖堂で商売をしてはならないのかを考えてみたいと思います。

商売とは、商品とされたものを売ることです。そして、商品となったものは、お金を払わないと、自分が所有するものにすることができません。

私たちのまわりは、さまざまな商品であふれています。かつては商品でなかったものが、商品となっています。例えば、水がそうです。

主イエスは、商品に囲まれて生きている私たちに、はっきりと言っておられるのです。「商品にしてはいけないものがある」と。

神にささげられたものは、神に属するものです。主は、神に属するものを商品とすることを、厳しく禁止しておられるのです。ですから、聖堂は商品ではありません。聖堂の中にあるものも、商品ではありません。聖堂に集まる人びとも、絶対に商品となつてはならないのです。

今日の第二朗読で、使徒パウロは、はっきりと宣言されています。

「神の神殿は聖なるもの…です。あなたがたはその神殿なのです。」

パウロが言っているように、私たち一人一人も、聖なる神殿であり、神に属するものとされているのです。私たちは皆、聖なるものなのです。私たちのうちに、「神の霊が…住んで」おられるのです。

パウロはさらに、「神の神殿を壊す者」は、神に滅ぼされると警告しています。神殿を壊すとは、神殿を商品とすることではないでしょうか。商品とは、消費され、役に立たなくなつたと判断されれば、廃棄されるものです。十分役に立っていても、もっと役に立つものが他にあると判断されれば、捨てられてしまうものです。古くなつたという理由だけで、捨てられることもあります。商品とされたものは、いつも他の商品と比較されてしまうのです。私たち一人一人は、商品ではありません。役に立つとか立たないとか、効率が良いかどうか、見た目が良いかどうか、新しいか古いかといった基準で、その価値が判断されてはならないのです。価値があるかどうかを判断することは、比較することは、許されない破壊なのです。実際、この世界では、破壊が続いています。価値があるものが、破壊されているのです。

しかし、主イエスは、破壊で終わることはないと言われます。主は、「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」と言われます。主が「言われる神殿とは、御自分の体のこと」なのです。私たち教会は、キリストのからだです。それも、「三日で建て直」される復活のキリストのからだです。聖堂という建物は壊れても、復活の主は生きておられるのです。復活のキリストのからだとは、復活の主が生きておられるということなのです。私たちが、神にささげられた聖堂に集まり、ともに祈り、ともに生きる時、復活の主が祈り、生きておられることになるのです。この復活のいのちは、決して破壊されることはありません。いのちの復活とは、生きているだけで、価値があるということなのです。

教会の聖堂が、神にささげられる時、そこに、復活の主が住まわれることになります。聖堂は、復活の主が生きておられることを、この世界の中で、示しています。復活は、私たちの希望です。希望の巡礼は、日々出会う人に、復活という希望を宣べ伝える旅です。すべてを商品にしてしまおうとする破壊の力に屈することなく、ともに歩いていきましょう。いのちはすべて、いのちであるという理由で、他のものと比較できない価値があり、この価値があるいのちこそ、復活のいのちです。この復活のいのちこそが、私たちが宣べ伝えたい福音です。日々出会う人と分かち合いたい、生きる喜びです。この生きる喜び、希望を分かち合いながら、ともに歩いていきましょう。